

浮立ってなに?

佐賀県内で現在、伝承されている民俗芸能は約200余といわれています。その中の大半を占めている浮立は約160余で、面浮立、行列浮立、天衝舞浮立などのいろいろな形で受け継がれています。浮立は行列の中の華やかな一部分である「風流」が、独立して芸能化したものといわれ、九州西北部に広く分布しています。



いつから始まったの?

頭上に大きな冠を頂き、勇壮で華麗な舞が特徴である天衝舞浮立は、室町時代の終わりごろ佐賀市の堀江神社神官の山本玄蕃が考案したといわれています。この浮立が江戸時代の寛永18年(1641)に上峰町米多地区に伝えられ、第二次世界大戦で途絶えはしたものの現在まで受け継がれています。



米多浮立はだれが受け継いでいるの?

米多浮立は上峰町大字前牟田(米多)地区の方たちで先祖代々受け継がれています。昭和46年1月には浮立の保存・伝承を目的とした米多浮立保存会が結成され、後継者育成など活発に活動されています。以前は大字前牟田地区を上分と下分に分け、交替で行われていましたが、現在は合同で奉納されています。



米多浮立保存会の活動の概要

昭和46年 1月 米多浮立保存会結成
昭和46年10月 上峰町重要無形民俗文化財に指定
昭和47年 3月 佐賀県重要無形民俗文化財に指定
昭和47年10月 九州民俗芸能大会出場(大分県湯布院町)
昭和49年 1月 NHKふるさとの歌まつり出場(佐賀市)
平成 3年 4月 第43回佐賀県植樹祭イベント出演(上峰町)
平成 8年 8月 世界への博覧会イベント出演(有田町・神埼町)
平成 8年 9月 佐賀県民俗芸能まつり出場(神埼町)
平成11年11月 三根町浮立の里祭り出場(三根町)
平成13年11月 全国小中連携教育研究発表会出場(上峰町)
平成15年 3月 第3回全国地域伝統芸能まつり(東京NHKホール)
平成18年10月 玄蕃一流(天衝舞)浮立450年記念祭(佐賀市堀江神社)
平成20年10月 第11回かしま伝統芸能フェスティバル(鹿島市祐徳稲荷)
平成27年11月 第57回九州地区民俗芸能大会(福岡県太宰府市)

上峰町文化財イラストマップ



アクセス

老松神社まで

- 長崎本線 吉野ヶ里公園駅より車で約10分
- 長崎自動車道 東脊振インターより車で約15分
- 国道34号線 切通し交差点より車で10分
- 国道264号線 江見交差点より車で5分

平成12年2月初版 平成29年8月改訂

上峰町教育委員会

〒849-0123 佐賀県三養基郡上峰町大字坊所319-4
TEL 0952-52-3833 FAX 0952-52-3888

米多浮立のほか郷土史のお問い合わせは上峰町ふるさと学館へ

佐賀県三養基郡上峰町大字坊所606
TEL 0952-52-4934 FAX 0952-52-4937

勇・肅・華

佐賀県重要無形民俗文化財

め た ふ りゅう
米多浮立



てんりゅうくん



芸術文化振興基金助成事業

さがけん かみ みね ちょう
佐賀県 上峰町

米多浮立

め た ふりゅう てんつくまい
米多浮立は天衝舞浮立の一種で、2年に一度、老松神社秋祭（10月25日前後の土、日曜日）に奉納されるお祭りである。出演者は「頭取」、「笛」、「天衝舞」、「後太鼓」、「鉦」、「ムラシ」、「ササラ」、「サイフリ」で構成されている。曲目は「道行」、「鳥居がかり」、「本噺」、「まくり」、「なまず舞」がある。

1日目の打ち出しは、集落の東に位置する端心寺跡の空地で本噺子とまくりが行われ、道行を奏しながら老松神社に向かい、鳥居がかりで境内に入る。境内では鳥居側に大太鼓、その両側に笛と太鼓打が立つ。さらにその外側に「ムラシ」、「ササラ」、「サイフリ」が並び本噺子となる。中央正面にいる天衝舞役の3人は高さ3mのテンツキを振り立て片手を腰に、片手で天衝を支えて飛び跳ねるように境内を一巡し、大太鼓を打つ。途中で祓となり運ばれた白米を撒き、天衝舞を舞う。副の2人が退場し、独り舞があつて本噺子が終了する。その後、御神体と御輿が集落の南側に位置する下宮へ道行を奏しながら移動し、お下りとなる。

2日目はお上りとなり下宮から出発し、老松神社へと向かい、最後になまず舞で終了する。

米多浮立は、他の伝承地にみられないいくつかの特色をもっている。白米を撒くこと、天衝舞三人が同時に舞うこと、ササラが加わっていることは他の天衝舞浮立にはみられないものである。また衣装も他の伝承地では白もしくはそれに近いものであるが、黒で統一されている点からみても特異な浮立といえる。



役名と衣装

頭取

紋付姿で、袋入りの太刀を持ち、常に大太鼓のそばで浮立全体の指揮をとる。

中老

手に短い采を持ち、指揮合図にあたる。

笛吹き

紋付き姿で小謡もかねる。（壮年）

天衝舞 大太鼓

黒じゅばん、黒ももひき、紋付を両肩ぬいで垂らし、黒手甲、白足袋にわらじばき、腰にゴザを垂らし、しめ縄をはる。頭上に巨大な天衝を戴き口を赤布でおおう。天衝は竜と日、月、宝珠が描かれている。腰のゴザは大太鼓を打ち誤ったときに切腹する用意であったと伝えられている。（青年）



後太鼓

天衝舞が中央で舞っているとき、大太鼓を打つ。衣装は天衝舞とほぼ同様であるが紋付やゴザがなく鍬形状のかぶとをかぶる。（青少年）

鉦打ち

9寸の鉦を打つ。従来は和服着ながらであったが現在はふだん着でそのうえに裃を着る。（青年）



ムラシ

和服にたすきがけ、袴をはき白足袋でわらじばき、鍬形状のかぶとをかぶり、口を赤布でおおう。胸前に小太鼓をつらし、両手のパチで打つ。（少年）



ササラ

振袖姿で手にササラ（編木）を持ち、すりあわせて拍子をとる。（少女）



サイフリ

着物に幅の広い布を肩から脇下に長くたらし化粧前ダシをつける。手には長竿の先端に色紙をつけた采を持ち、掛声にあわせ振ったり地に突きたたりする。（男児）

